

2021年12月12(日)～14日(火)

旧東海道ブラ歩き(12) 新蒲原ー静岡

前回と今回の2回の挑戦で三島から静岡(五十三次の時代は府中と呼ばれた)迄を走破した。今回は前回歩いた新蒲原を起点として初めて2泊3日で静岡を目指し何とか所期の目的を達成した。新蒲原から静岡までは時速4kmで歩き続けられる人なら1泊2日で到達できる距離であるが、今は最も日が短い期間で、我々老夫婦だと何かあると初日の薩埵峠(さったとうげ)越えが夕方になる可能性もあり、安全を見込んで2泊3日としたものである。結果としては全て順調にいき、余裕のあるスケジュールとなった。歩数は第1日目が2万歩、2日目3万歩、3日目31000歩、合計81000歩だった。今回のハイライトは2日目の薩埵峠越えとそこからの富士の景色である。

Day 1、12月12日(日) 新蒲原ー由比 快晴

朝7時4分品川発の新幹線で7時50分三島着、東海道本線に乗り換えて8時50分に新蒲原着。直ちに歩き始める。この一帯は桜えびの産地で、新蒲原駅前には桜えび漁船が展示されている。初日の目的地は桜えび漁獲量日本一の由比であるが由比宿の入り口には10時30分に到着。時間の余裕があるのでそこにある広重美術館を丹念に見て14時15分には宿泊場所である割烹旅館西山に到着。チェックインは15時だったが部屋の準備が出来ているというので部屋に入れて貰い、14時半頃風呂に入っただけのんびりした。

道中の蒲原宿は旧東海道沿いの街並みがよく整備されており、重要な建物には立て札による説明がある。由比宿に入ると本陣跡の由比本陣公園内に広重美術館があり期待して入館。東海道五十三次の浮世絵が豪華に並んでいるのかと思うと全く異なり、さらに展示されている70～80枚の浮世絵のうち広重のものは1割程度しかなく期待外れだった。勿論有名な「蒲原 夜之雪」はあったが。その後インターネットで調べると本年11月1日までは二大街道特集として「東海道五十三次」と「木曾街道六十九次」の版画の展示があった由。残念。ただここに江戸と京都を結ぶ東海道と中山道の宿場のポンチ絵が展示されておりこれは参考になった(写真1)。美術館を出るとその隣に本陣記念館御幸邸があり、ここで(有料で)抹茶を飲ませてくれるというので上がり込んで小堀遠州作と伝えられる枯山水を眺めていると、背後から係りの女性が広報用にその後ろ姿を写真に撮っても良いですかと許可を求めてきた。全く予期せぬ出来事だったが、断る理由もないのでそのままお菓子を頂き抹茶を一服しながら景色を楽しんでいると後ろで何枚か写真を撮っている。いずれこの広報誌にでも出るのだろうか。

その斜向いが正雪紺屋という染物屋で、中に入ると染料を保管した大きな瓶が多数並んで

おり、商品としては手ぬぐいなどを独自のデザインで染めたものを売っている。ここは浪人を蜂起させて討幕運動を狙った慶安 4 年の慶安事件の首謀者由比正雪の生家と伝えられる。ここのお上さんは一人で店を営んでいるとのことで 40 分ほど話をし、美しく染め抜いた手ぬぐい 3 枚、それに東海道五十三次の全ての宿場を地図の上に印刷した手ぬぐいを 5 枚購入した (1 万円強)。この女主人によるとコロナ以前五十三次を歩く旅が盛んだった頃は旅行社がこれを企画し、完歩した人への記念品としてここで染めた手ぬぐいに本人の名を入れたものを配るための注文も受けたといていた。我々ももし本当に京都にたどり着いたらこの店に特注の手ぬぐいを染めて貰って友人知人に配るというのも一つのアイデアと思いついた。正雪紺屋の電話は 054-375-2375

昼食はここで教えて貰った店で桜えびのかき揚げ蕎麦だったが桜えびが滅法おいしかった。流石由比だ。序でながら由比の駅前を通る道は桜えび通りと名付けられている。その後由比港をみて宿に着いたのが前述の通り 14 時 15 分、由比の街並みから見た富士は写真 2 の通り。入浴後景色が良いというので裏山の公園に登り海を見るが期待外れ。

夕食は桜えび三昧。うに、煮物、佃煮、かき揚げ、更に桜えびがたっぷり入った鍋というわけで堪能した (生の白魚もあった)。と同時に今後暫くは桜えびはなくても良いとも思った。なお、テーブルに敷いてある紙が五十三次の前宿場と広重の由比薩埵峠の絵だったので 1 枚貰い受けた。

旅館は安普請の和室で、風呂とトイレは共同使用。予め覚悟はしていたがこれはかなりこたえた。部屋の広さは十分だが、椅子がないので一旦座椅子に座ると立ち上がるのに一苦勞である。これを避けるには立ちっぱなししかないが、これは不可能だ。風呂が沸いたという電話がかかってきたときに電話機までたどり着くのに大変な思いをした。夕食後家内と少しテレビを見たが、お互いに部屋の座布団を座椅子に 4~5 枚重ねてその上に座るといふ有様だ。また、共同トイレなので夜寝間着を着て寝ぼけた顔をして部屋から出て用を足すのも何となく気が進まない。さらに敷布団がせんべい布団 2 枚で、寝た途端にこの薄さが身に染みる。事実寝ていて体が痛くなる。家内は遂に我慢が出来なくなって座布団を敷布団の上に載せ、その上に寝ていた。これから猛烈な勢いで高齢化が進むとこうした形の宿の将来性は極めて暗いのではないかと思った。翌朝出発の際そこの社長に布団が薄すぎることを、部屋にせめて椅子を 2 つ置いた方が良いのではとっておいた。2 食付きで二人で 18000 円強

Day 2、12 月 13 日 (月) 由比一清水 (江尻) 快晴

愈々薩埵峠越えで気が引き締まる。朝食をゆっくり食べ 8 時 45 分出発。JR 由比駅を過ぎ

て県道を右にそれて旧東海道を進む。名主小池邸などいくつかの建物を横目に由比、寺尾、倉沢地区を通過。やや急な登りが一部にあったが難なくこなし 9 時 20 分ごろ薩埵峠パーキングに到着。ここまでは細い道だが車でも来られる。昨日に続き快晴。駿河湾、富士、それに伊豆半島がごく近くに見える。ここでミカンを買って食べながら休憩して写真を何枚も撮る。ふと横を見ると女性が一人でいるので声をかけたところ大泉学園に住む須田さんという人で青春 18 という切符で日帰りであれば JR どこまで行っても 2400 円で旅をしている。今日は早朝に自宅を出て（新幹線に乗れないので）東海道線の鈍行で 9 時頃由比駅に着き、そこから歩いてきたとのこと。昭和 19 年生まれといていた。

休憩後愈々薩埵峠のハイキングコースに入る（写真 3）。ほんの数十メートルの所に第 2 展望台があり、ここの眺望が最高（写真 4）。この景色は良くポスターになっているが、写真はここで 10 時 10 分頃に撮ったもの。眼下に東名高速、国道 1 号、東海道本線があり駿河湾越しに冠雪の富士が見え、誰が見ても感動する光景だ。このすぐ先に興津駅まで 3.7km との標識がある。ここからは下りだが、ほとんど階段。ここで須田さんに抜かれる。これを降りその先で自動車道や汽車がトンネルに入るところを旧東海道は右に大きく迂回して田舎の道を進む。その先で再度左ひだりと廻って一国に合流、暫く歩くと清水区興津中町、日本橋から 165km の標識がある。よく歩いたものだ。お昼丁度に興津宿に入る。お腹がすいているが全く食べ物屋がない。興津駅にも行ったが駄目。仕方がないのでそのすぐ側のパン屋さんでパンを一つずつ買ってパン屋前のベンチで食べていると須田さんが通りかかる。

次は有名な清見寺（せいけんじ）で、ここは嘗て義元の人質時代の竹千代（徳川家康）も立ち寄ったところ。案内書では東海を代表する名刹とある。階段を上って東海道本線の上を渡り境内に入る。確かに立派なお寺で、朝鮮からの通信使も立ち寄ったところ。拝観料を払って中の宝物を見れば面白いとは思ったが先を急ぐのでここで引き返す。ここに咸臨丸乗組員殉難碑があり建立が清水次郎長とあったのには驚いた。高い場所にあり昔は三保の松原方面まで遠望できたに違いないが、今は埋め立て地に工場が建ち並び全くその面影はない。この点は次の坐魚荘も同様だ。

このすぐ先に西園寺公望が晩年を過ごし、東京から政界の有力者が西園寺詣でを繰り返した坐魚荘があり、ここは大いに期待したが、月曜休館で入れなかったのは痛恨の極みである。同じマンションの住民に直系の西園寺さんがおり、その奥様からこのことを聞き及んでいたのも尚更だ。この時点で 12 時半。このまま歩き続けてお腹がすいてきたところで、偶々大きなドラッグストアがあったのでアイスクリームを買ってしばしの空腹をしのぐ。14 時 18 分に江尻宿（清水）に到着、やっと小さい珈琲屋を見つけて小休憩、数分後に本日の宿のホテルマイステイズ清水にチェックイン。その直前にまた須田さんと会う。彼女は

既に江尻城址まで行って来たという。ホテルは朝食付きで Twin Room が二人で 1 泊 8500 円と割安で、部屋の設備も一通り整っている。バスタブとトイレが別で、風呂場では体を洗うスペースもある。ベッドも悪くないし、パジャマもついている。前日と比べて大いに満足。海側で景色も良かったが唯一の難点は夜中にホテルのすぐ下の線路を走る貨物列車の音が聞こえることだった。夕食は折角清水に来たので寿司を食べようと思ってホテルフロント経由で有名な末広鮨に予約を入れたが満席と断られ、別の寿司屋（一兆）を紹介されここに行ってみたが、沼津とは比較にならない。残念だった。

Day 3 12月14日（火）清水（江尻）－静岡（府中） 曇り→雨→曇り

9 時前に出発して静岡を目指す。髭剃り、下着、これまでに購入したお土産等を宅配便で自宅に送り、荷物は軽くなった。最初に立ち寄ったのが追分羊羹で 9 時半開店とあったがその 5 分前には既に開店していた。ここで再び大量の羊羹を購入し自宅宛に発送して貰う。その選定や書類作成で 30 分ほど時間がかかった。清水の次の駅の草薙辺りを歩いているときに雨が降り出した。清水－静岡間の旧東海道は所々大きな道と合流するのでスーパーやコンビニがたくさんある。大分降りが激しくなった頃目の前に 100 円ショップのダイソーがあったので飛び込んで 300 円のビニール傘を買う。案内書にはこの辺りの草薙神社大鳥居を過ぎて左折とあるが一向に大鳥居が出てこない。ダイソーの地元店員に聞いたところ数年前に取り壊されたとのことでこれでは分かるはずがない。お陰でなんとか道に迷わずに済んだ。

小生は元々方向音痴で地図の見方もうまくない。地図は普通北が上だが、これだと分からないので地図を自分の向きに合わせるといふタイプだが、家内は方向性も地図の見方もうまい。五十三次歩行中の Navigator は専ら家内が勤めている。

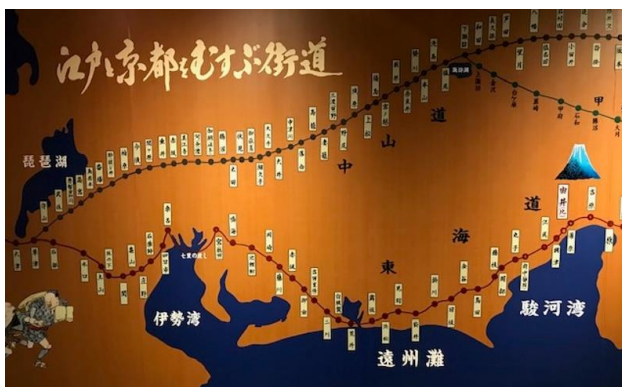
更に 1km 以上歩いて行くと旧東海道記念碑というのがあり、ここで道は東海道本線と静鉄清水線によって分断されている。歩行者は車がやっと 1 台通れるような地下トンネルを抜けて線路の反対側に出るのだが、案内書がなければここは確実に迷子になるところだ。

雨は小雨だがやまない。この中を黙々と歩くと 12 時半に府中宿東見附の標識がある。これで漸く静岡の東に到達したわけで一安心。しかし空腹が高じてきて何とかランチの店を探したいが、なかなかいいところがない。この間に何時しか静岡市のど真ん中に入っている。偶々町にいた女性 3 人連れにどこか食べる場所はないかと聞くとすぐ側にモールがあり、その上の方にレストラン街があるとのことで、漸く昼食にありつく。ここでゆっくりとランチ、この辺りは渋谷新宿と同様の賑わいだ。腹ごしらえが済んだので 14 時頃西郷隆盛と山岡鉄舟との慶応 4 年の会見の石碑を見る。そばに詳しい説明文もついている。

これでともかく静岡までの旅は成功したし、時間の余裕もあるので半分観光旅行気分で先ず駿府城址をみる。ここは徳川家康が隠居して住んだところで、実際にはここから院政を施していた。謂わば当時の事実上の政治の中心だった。城は既に無く、残っているのは二つの門だけだが東御門から入る。城内はかなり広く、公園として市民に開放されている。折角なので徳川家康の像まで行って挨拶をしておいた。かなりずんぐりむっくりのお爺さんという感じだ。鳴くまで待とう時鳥との連想が浮かんだ。

次に訪れたのは浮月楼で、ここは最後の将軍徳川慶喜の謹慎が解けた後 20 年間住んだ場所である（写真 5）。今は料亭として使われている。次は宝台院で、ここは徳川慶喜が銚子から海路で密かに江戸を抜け出して謹慎した場所として知られている。こうしてみると矢張り駿府は徳川との関係は切っても切れないことが分かる。歴史散歩として興味深いものがあった。

最後に静岡駅ビル内の京都のお茶屋さんのお抹茶とケーキセットでのんびりと過ごし、16 時 25 分のこだまに乗って 18 時前に帰宅した。会計係の家内の計算では総費用は締めて 7 万 5 千円の旅だ。次の目標は浜松だが、この間はかなり距離がありそうだ。じっくり計画を立てて来年実行するつもりだ。



(写真 1) 広重美術館の五十三次図



(写真 2) 由比の街並みと富士



(写真3) 薩埵峠のハイキングコース



(写真4) 薩埵峠からの絶景



(写真5) 浮月楼 徳川慶喜晩年の住まい